

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

チャレンジ精神（現場重視・顧客重視）で大企業病を克服 村田 恒夫（村田製作所会長）

1. 私が社長になる前、2000年ごろのITバブルが崩壊してから、何年かは低成長が続きました。いわゆる「大企業病」でした。企業風土が硬直的で、上が下に向かって「やれ」と言う上意下達の体質になっていた。創業の精神は忘れられて、風通しが悪くなっていたのです。だから、そこから時間をかけて、もう一度創業の頃のチャレンジ精神を取り戻そうと、現場重視、顧客視点の重視という方向に改革を進めてきて、企業体質がずいぶん変わったかなと思います。
2. 役員間のコミュニケーションがなかったので、役員合宿は相当やりました。それぞれがこんな会社になりたいという絵を描いて、ようやく役員間のコンセンサスが得られるようになる。04年に改革委員会を立ち上げ解散したのは15年ごろ。風土改革には、10年余りも要しました。
3. 上意下達だけではうまくいきません。また、自律した組織といっても、方向が同じでないとまずい。村田には創業者が苦労した時期に作った社是（経営理念）「社会や文化の発展に貢献する」があるので、それを浸透させて一人一人が行動指針にしてもらう活動は今も続けています。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2022年10月22日号）

経営者のための社会学

日本で少子化が進む「根源的理由」

1. 日本の2021年の出生数は81万人で、統計開始以降最小となった。合計特殊出生率は近年では1.3前後を推移し、少子化が加速している。少子化の主要である未婚者の増加には「価値観が多様化し、恋愛や結婚に価値を置かない人が増えた」との指摘がある。だが、婚姻・交際には、収入や学歴、雇用形態といった社会経済的要因が大きく関係してくる。
2. 少子化を「個人の価値観の問題」とすれば、若者世代の貧困や不安定な雇用という根源的な理由を見落とす。安定した雇用と十分な収入が保証され、誰もが望むタイミングで望む数の子どもを持てるよう、若者世代への早急な支援が必要だ。近年増え続ける未婚者やシングルが多くは、低収入かつ非正規雇用など不安定な就労形態の人々なのである。

（参考：「週刊東洋経済」2022年10月22日号）

経営者のための営業学

結婚・出産、企業の支援の事例

1. 地域密着の信用金庫にとって、地域の少子化は自らの存在意義に関わる切実な課題だ。その進行を食い止めようと奮闘しているのは、苫小牧信用金庫（北海道苫小牧市）だ。13年から結婚相談所「LLB（ラブ・ラブ・ブライダル）会」を始めた。営業地域内に住み、結婚したいという人なら無条件で支援する。会員は会社員・公務員・農業・漁業従事者まで幅広い。
2. サポート体制は万全だ。担当者は全員のプロフィールを確認して紹介相手を選び、「仮交際」「真剣交際」と段階を踏ませていく。これまでに実現したお見合いは約800回。64組が結婚し、確認できるだけで、17人の子どもが生まれた。結婚したカップルから住宅ローンの申し込みが来たことも複数回ある。「会員が子を見せに来てくれる時が何よりもうれしい」（業務企画部）。

（参考：「日経ビジネス」2022年10月31日号）

古典に学ぶ

「悟り開くことが大切」（お釈迦様）

1. そもそも仏教は、2600年ほど前、インドに生まれたお釈迦様（ブッダ）によって開かれました。お釈迦様は、「苦しい人生を生きるには、執着や欲などの煩惱^{ぼんのう}を捨て、悟りを開くことが大切だ」と説き、心穏やかに生きるための知恵を人々に伝えました。
2. お釈迦様が亡くなったあと、教えを受け継いだ僧たちがそれぞれに悟りを開くためのアプローチを見出し、各自の宗派を興します。密教も、その流れの中で7世紀末頃にインドに生まれ、中国に伝わりました。

（参考：名取芳男監修「空海 道を照らす言葉」：河出書房新社）